

今号の言葉

「病によりて道心はおこり候か」

日蓮大聖人のお言葉です。

私達は健康を願うが、病になって初めて悟れることがある。その時、病は導き手になる。苦しい事ほど沢山の気づきがあることを教えてくれています。



寺嫁のつづき...

前号で一部の方から「次号も楽しみにしているよ」とお言葉を頂戴したので、今号でもつづやかさせていただきます。

私は幼い頃から母に「何か資格を取って、手に職をつけなさい」と言われて育ちました。耳が聞こえなかった祖父に対する私の接し方をみて、母から「美代子は看護婦になるとよいよ」と事ある毎に言われ、単純な私はそれが目標になっていきました。



実家から通える看護学校は弘前市内に一所しかありません。しかし、高校三年の私は受験勉強に身が入らず、当然不合格。高校の先生が紹介してくれた神奈川県看護学校を受験するも不合格。もはや諦めモードになっていたある日、母にお使いを頼まれ、雪道を歩いていると、倒れた自転車横で座り込んでしまっているおじいさんを発見。「大丈夫ですか?」と声を掛けると、転んでしまったとのこと(降雪の中を普通に自転車に乗るところは流石青森県人)。歩けそうだったので私が家まで送ろうとすると、「あんだこの家の娘だ? 優しいな。何人か前を通ったが誰も声を掛けてはくれなかった。わ(私)は大丈夫だ。ありがとな」というので、おじいさんを見送って家に帰ることに。帰宅すると直ぐさま電話が鳴り、その電話は神奈川県看護学校の補欠合格の知らせでした。

後から振り返ると、あのおじいさんとの出会いは、仏様のお試しだったのではないかと、思っています。困った人を見てどう振る舞うか。看護師になる資質があるかどうかと(試験で点数が取れていればこのお試しいらないのですが)。何はともあれ、晴れて

神奈川県看護学校に入学し、卒業後はそのまま横浜で病院勤務をし、住職と出会い結婚し寺嫁となりました。青森の看護学校に入学していれば、当然住職とも皆さんとも出会うことはなかったと思うと、つくづく人間は何が幸いするか分からないと感じてしまいます。住職がよく「お導き」という言葉を使いますが、不合格も寺嫁となる為のお導きだったと感じる感謝の日々です。

Shoudouji News

唱導寺だより

第5号
2021.11月

「龍ノ口法難」絵

日蓮といふし者は
去年九月十二日子丑の時に
頸はねられぬ。
これは魂魄佐土の国にいたる

日蓮宗
延宝山

唱導寺

今を去ること750年前の文永8(1271)年9月12日

日蓮大聖人は龍ノ口(現在の藤沢市片瀬)の処刑場で首の座(斬首)に

その時江の島の方から光物が飛来し難を免れました。

これを龍口法難といい、上行菩薩の御自覚へのターニングポイントとなりました。

その刑場後に本山龍口寺があります。



当寺住職による

「海應コラム」

Vol.05

今年もコロナウィルスに翻弄された一年になってしまいました。コロナ禍でご苦労されている方々が沢山いらっしゃいますが、その一方で沢山の気づきを得た方も多いのではないのでしょうか。私はコロナ禍で自分をリセットできたと思っています。お寺もコロナ禍の影響は大きいです。年中行事も思ったようにできず、これからお寺はどうなっていくのだろうと考えさせられることも多々あります。

しかし、コロナ禍のおかげであり興味のない外部の「会議」という名の集まりや、俗にいう「お付き合い」で外出する機会がなくなり、自分の求めるものへの意識が高まり、時間を使うようになりました。コロナ禍でなくてもそうすれば良かったのですが、私は人一倍意志が弱く、楽しいことや楽なことに流されてしまう人間です。コロナ禍のお蔭で強制的に様々な行動が制約され、自然と流れができたように感じています。なので、今現在の私はコロナに導かれた感じがあります。

勿論、たまには外で一杯やりたいし、仲間にも会いたい。お寺の行事も檀信徒の皆さんと行いたいし、本山への団参もしたい。これらは一昨年までは当たり前に行っていたことです。当たり前だと思っていたことが「有り難し」ということを実感させてもらったのもコロナ禍のお蔭です。

お釈迦様は「世の中に常なるものはないぞ。常でないものを常だと思つて苦しみが生まれる」と三千年も前から教えてくれています。常でないからこそ今日という一日は「有り難し」と気付く。これ幸いへと繋がる道。今日も一日ありがとう。合掌



今号の一枚

赤ちゃん
見ているだけ
で幸せに
なれる。凄
い力だ!

唱導寺だより 第5号

発行◆令和3年11月15日

発行者◆日蓮宗延宝山 唱導寺

住職 菅野 海應

神奈川県横浜市港南区日野中央1の6の34

電話:045(842)2955

FAX:045(841)9600

ホームページ:www.shoudouji.org/

美空ひばりさんの第三十三回忌法要



本年は当寺檀徒であり、昭和の歌姫と呼ばれ国民栄誉賞を受賞された、歌手の美空ひばりさん(故加藤和枝様 慈唱院美空日和清大姉)の第三十三回忌でした。

ひばりさんは平成元年6月24日に霊山浄土へと赴かれました。加藤家の墓所は横浜市営日野公園墓地にあります。ひばり

さんがお亡くなりになられてから、ご命日には後援会をはじめとして毎年何百人という方が墓前に集い、ひばりさんに思いを伝えられています。

本年は第三十三回忌の節目の年ですので、本来ならば皆で集いご供養をさせていただくべき年ですが、コロナ禍の為それは叶いません。そこでご子息である和也様が考案され世界中のひばりさんファンの方と共にオンライン法要を行う運びとなりました。オンラインならば普段は墓前にお参り出来ない海外在住の方も参列していただけます。コロナ禍だからこそ皆と繋がることができるという素晴らしい発想の転換でした。



当日は朝から不安定な天候で、開式1時間前位からは、傘を差していても濡れてしまうような雨でした。これは傘を差しながらのご回向かな?と思っていると開式と同時にピタッと雨が止み晴れ間さえも見ることができました。「流石はひばりさん持っていらっしゃる。」心の中でそんな思いを懐きながら雨上がりの墓前でご回向させていただきました。



加藤和也氏と住職

ひばりさん最後のシングル曲となった「川の流れるように」は、信仰とは川の流れのように弛まない姿勢が大切だと教えてくださった、日蓮大聖人の御教えに重なる気がしてなりません。



唱導寺護持会員募集

唱導寺には「護持会」という、お寺を守る会があります。会費はお寺の修繕費や御会式での奉納金等に使われています。広間のテーブルと椅子も護持会様からの寄進です。

皆さまに気持ちよくご参拝いただけるお寺であるために、是非皆様のご入会をお待ちしております。



信仰の証 護持会員輪袈裟

入会金1万円 年会費5千円

Q 鈴は何回打つものなの?

A 日蓮宗ではお祈りを始める前に三打、終わった時に三打を基本とし、お経の切れ目などでも打ちます。お仏壇でのお参りの時は、最初と最後に三打を基本にすればよいでしょう。



Q お堂に入る時はどっちの足から?

A 日蓮宗では「左進右退」といい、左足からお堂に入り、右足から出ます。勿論、敷居は踏みません。



A 御本尊は安置してください。御本尊が入っていない仏壇は、仏壇ではなく位牌箱です。仏壇に御本尊を安置することによりお仏壇はお寺の本堂と同じになります。本尊とは「本来尊重」「根本尊崇」「本有尊形」の三義であると教えられています。

Q 仏壇には御本尊を入れた方が良いの?



Q お線香は何本立てれば良い?

A 宗派により考えが違います。日蓮宗では香を供養するという本義からすれば一本でよいという考えです。しかし、本数にあまり固執する必要はありません。例えば「今日は亡き父の命日だから、いつもの一本に加えて父の為にもう一本お香を供養しよう」とする時は、合計二本でも問題ありません。お香を捧げるという気持ちは何よりも大切です。

Q お塔婆は建てるべきなの?

A はい、お建てするべきです。お釈迦様は「皆、塔を建てて供養すべし」と教えて下さっています。その昔は亡き方の遺徳を讃える為や、信仰を表す為にストウパ=塔を建てて供養していました。インドのストウパが日本に伝わり「五重の塔」や「五輪塔」などとなりました。しかし、我々が供養の度に「五輪塔」を建てるというのは不可能です。



そこで考えられたのが、現在の卒塔婆です。五重の塔を板で表し、そこにお題目をしたため宝塔とし、故人の法号(お戒名)を書き「塔を建てて供養すべし」の功德を故人にお送りするのです。また、お塔婆は故人への「お手紙」と思っ下さっても良いでしょう。

Q お戒名に「院」が付くとなぜ戒名料が高いの?

A 唱導寺では特に決まった戒名料は設定していません。ただ「院」という字は元来一人でお寺を一ヶ寺建立した篤信の方に付けていたようです。例えば唱導寺を一人で建立すれば「唱導院」みたいな感じですが。規模が小さいお堂を建立された方には「軒」や「庵」という字を使っています。なので、よく法号をお付けする時に「院号をつける」と値段が高いのではありません。と聞かれますが、本来から言えば「お寺一件分です」と答えるになります。現代ではそのような事はほぼありませんが、色々な意味でお寺に貢献してくれた方にお付けをする文字になっています。



Q お仏壇にある燭台と花瓶の位置を教えてください



① 燭台と花瓶が各一つの場合 (三具足)

燭台
香炉
花瓶

② 燭台と花瓶が各二つの場合 (五具足)

燭台
香炉
花瓶



唱導寺本堂の五具足



Q お題目は何遍唱えれば良い?

A 決まりはありません。お題目を唱えながら、次第に心が落ち着きお題目と一体になるような感覚が得られるまで。また、自分の気持ちをご先祖様に届いた感覚を得られるまでお唱えできれば理想的でしょう。数で決めるのであれば、「玄題三唱」という言葉があるくらいですので3遍や、仏教では七という数字を大切にしますので、7遍・14遍・21遍・35遍等でしょうか。



よくあるご質問にお答えします

知っているようで実はよく分からない、お寺や仏壇への日頃のお勤めのことなど、皆さんからよく尋ねられるいろいろなご質問にお答えいたします。